【1】日刊（除月曜）昭和25年10月6日 第3種郵便物認可 昭和26年7月13日 運輸省特別扱承認684号 磐城日日 昭和27年（1952）11月5日（水曜日） 第674号

磐城日日
発行所
磐城日日新聞社
福島縣小名浜町渚廻51
電話代表387番
振替仙台31,355番
編集人発行人 長瀬芳郎

全小名濱遂に優勝
讀賣旗三度び濱へ
物云った宮下の二塁打

第十一回福島縣軟式野球大会は、既報の如く十一月二日より郡山市營球場並に安積高校校庭の二球場で、前年の覇者原町クラブを始め各地区予選に於て選ばれた十三チーム参加に依つて行われたが全小名浜クラブは第一回戦に前年の覇者原町クラブを6－3で破り、續く準決勝には同じく原町球友クラブを8－0と一方的に降し、決勝戦に於ては國体及天皇杯共に縣代表として縣下随一と稱される日東第二と相對し、接戦熟斗の末、ラッキーセブン四球出塁の小泉、果敢な二盗の後、投手宮下の殊勲二塁打に貴重な逆轉の一点を挙げてそのまま押し切り、輝く三度目の優勝を爲し遂げ、昭和二十七年度福島縣軟式野球選手選を獲得した

因に全小名浜は第二回選手權の昭和十六年及第九回の昭和二十五年と第十一回の本大會と三度選手權を獲得しており、本大会に於いては全小名浜の三回獲得が最高記錄であり、本大會は昭和十九、二十年の二ヶ年は戰爭のため中止されていた

第一回戦（二日正午）

原	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3
小	0	0	2	0	0	0	0	4	0	6

	打	安	三	四	盗	失
原	30	4	10	3	1	2
小	35	6	10	2	5	1

宮下 投 林
吉田 捕 高橋

三塁打……佐川（小）
二塁打……柳内忠（小）小林、高橋、鈴木（原）

準決勝（三日午前十一時）

	打	安	三	四	盗	失
球	29	2	14	4	1	4
小	38	9	4	6	2	5

宮 下 投 吉田
高久田 猪狩
杉 田 捕 松永

三塁打……小泉（小）
二塁打……小野2、角田、柳内忠、高久田

決勝（三日午後二時）

日東第二	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3
全小名浜	0	0	0	2	1	0	1	0	0	4

	日東第二	打	安	三	四	盗	失
6、1ﾒ	和田	4	0	2	0	0	0
4	小林	3	0	0	1	0	0
2	松本	2	0	2	2	1	0
9	人見	1	1	0	0	0	0
9	西巻	2	0	2	0	0	0
5	矢口	4	0	0	0	0	0
3	橋本	3	2	0	1	0	0
7	渡辺	4	0	2	0	0	0
8	大野	4	0	1	0	0	0
1	佐藤	1	0	1	1	0	1
6	椎名	1	0	0	0	0	0
		29	3	10	5	1	1

	全小名浜	打	安	三	四	盗	失
5	佐川	3	0	0	1	0	0
8	田中	3	0	1	0	0	0
8	柳内無	0	0	0	1	0	0
9	高久田	4	2	0	0	1	0
6	小野	4	1	0	0	0	0
4	柳内忠	3	1	0	1	0	0
7	小泉	3	0	0	1	1	0
1	宮下	4	2	0	0	0	2
2	杉田	4	1	0	0	0	0
3	角田	3	0	1	0	0	0
		31	7	2	4	2	2

▼本塁打高久田▼三塁打小野▼二塁打宮下（2）

小名一小で遠足行う

小名浜第一小学校の小遠足は野外教育と体育を目的として去る一日実施する予定のところ、悪天候のため延期していたが四日の好天を幸いに各兒童辨當持参程度で、一年＝鹿島村御代の濡れ佛、二年＝江名町上神白の國造神社、三年＝江名の江名無線局、四年＝泉村玉露の花立山、五年＝泉村の萱手鑛泉、六年＝茨城縣村松虚空藏樣へそれぞれ遠足を行つた

山村教育の研究會開く

小名浜町第一小学校長髙木長年氏会長の縣山村教育研究会石城支部（支部長樋口兼光氏＝上三阪小学校長）では本五日午前九時より上三阪小学校に山村關係教職員多数参集して研究会を開き、授業参観後山村教育の諸問題について討議を行う

錦、植田町
初の教委會

錦町初の教育委員会は去る一日午前九時より町役場會議室に於いて開催した

この日町民から選良された佐久間清一、牧山正彦篠原保治、赤津千里氏の四委員と町議会から選任された藤原重止（副議長吳羽勤労課長）氏は定刻九時に登場、まず髙木錦町長の挨拶があり、次いで最年長者である篠原保治氏を仮議長に推して議事第一号委員長選出を行つた結果、委員長に篠原保治氏、副委員長には植山正彦氏が各々決定した、續いて助役助川庄次氏を教育長に任命、会議規則の審議を行い午前十一時三十分初の委員會を終了した

また植田町教育委員会も一日午前九時より町役場会議室に成清マサ子、髙木一郎、小野保、長瀬武雄、小野塚量（町議側）の五委員出席して開き、渡邊植田町長の挨拶後教育長には吉田信雄（町助役）委員長には長瀬武雄氏、副委員長には小野塚量氏を決定、会諸規則などの審議を行つた

繪畫美術展覽會
平マルトモで開催

日本新創作美術人会の第二回繪画美術展覧会は去る一日より三日間平市マルトモホールに於て午前九時より開催されたが今会は、文化への貢献を目的としており中央畫壇進出と同人の向上を圖るため、産業經濟新聞社美術評論家藤谷雨道氏を招いて毎月一回研究會を開き指導を受けているもので、その作品は美術界の注目をひいている

今回の出品作品は春の中央画壇を飾るものとして大いに期待される大作ぞろいであつた、なお主なる出品者は次の通り

石井勝画、石井浩然、八角三郎、金子初男、笠井次男、中野秀甫、中根白幽、野村泰治、前田力、曳地清風、元木吉勝、鈴木要平

天氣豫報 5

【本日】北東の風次第に强まり始めのうちは曇り時々晴間も見えますが後に時々小雨模様となりましょう

魚菜市況 4

【小名浜中央青果市場】卵一二、五～一三、五柿三〇～四五葱三〇四八人參五五～六七里芋四七～五一ホーレン草八〇～八五大根二～三〇丸大根九～一三〇白菜二八～三七へらな一二切芋一六〇馬鈴薯三八～五〇牛蒡五六～六〇玉葱三七～四〇胡瓜一二五茄子五～三〇

【小名浜魚市場】さんま六八～九四

「山びこ学校」雑感

半凡山人

そして「母の死」はその後においても續いている大きな問題なのであり、母をして笑わしめなかつた同じ貧乏に立ち向つてゆかねばならないことは作者の問題として取り上げられねばならないわけである、そこで作者は「母の死」と連る「貧乏の原因」について考えてみ「貧乏なのは、お母さんの仂きがなかつたのではなく、畑三反歩という所に原因があるのではないかと思えてくるのです、三反歩ばかりの畑では五人の家族が生きてゆくにはどうにもならなかつたのでしよう、だから今日の書間先生に書いてやつたようなことは夢で、ほんとはどんなに働いてもお母さんと同じように苦しんで死んでゆかねばならないではないか、貧乏から抜け出すことができないのではないか、などと思われてきてならなくなるのです」という切実の訴えの中に生活の凝視が密度とまかくおし縮められ「お母さんのように働いてもなぜ「ゼニ」がたまらなかつたのか眞劍に勉強することを約束したいと思います、私が田を買えば賣つた人が僕のお母さんのような不幸な目に會はなければならないのではないか」という考え方が間違つているかどうかも勉強したいと思います」という結びの言葉に至るまでその鋭く深くえぐられた思索と生活に現われた新しい知性のひらめきとは、今日社會經濟道徳のあらゆる問題にぶつかつてくるものを感ぜずにはいられない

このように「山びと學校」にのせられている文集の特色は徹頭徹尾、生活の打開と探究であり「母の死」に象徴され過去の日本農民の慘さと、それをのり越えてゆくために努力している今日、そして未來へと續くその發の序章であるという点において、そのもつ今日的意義はまことに大きいように思う、それは新しい日本の農村の誕生を表現しているカ強い言葉なのである

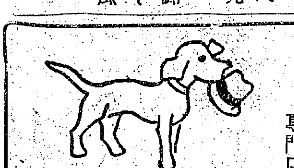
「山びと学校」の成果は良い子の中から生れたものではなく、あたり前の子供達の喧嘩と失敗との間から組織化され、生産されたものでありそこに三年の尊い時間の流れがあつたことを知りえたという事である

「教育に速成なし」――如何なる教育現実の中にも「山びこ学校」への発展はあり得るわけである

さいごに「山びこ學校」の問題は北方教育者たちの生活綴方運動の歴史的發展の上に立つて、正しくとりあげられなければならないのであるが、との小論ではそれを指摘しておくにとどめざるを得ない

（終り）

募集!!
婦人子供服
裁断師 若干名
都服装支店
電話六七一



経費をかけずに良い品安く
専門店会チケット御利用下さい

御子様へ御菓子
動物ヨーチエン百匁60円
ビスケット 百匁50円
學生さんへ
上質ノート16枚 5円
上質大學ノート15円より
野球帽55円より110円
御嬢さん奥様へ
夜具地 反 270円より
白牛地ヤール 55円より
化粧品御屋メヌマ
ジュジュペピリオ } 80円
花王洗濯石鹸德用型10円
御勤の皆様へ
純毛セーター850円
ビロード黒婦人靴590円
男女雨靴530円より各種
純毛メリヤス1500円

小名浜第二小學校前
皆様の店 平マーケット
電話297番

開店お知らせ
「みゆき」です
どうぞよろしくお願い致し升
新しい味覺!!
そば・ワンタン
専門店 外に
丼物 その他
小名浜町横町
電（呼）五三一

秋・冬服地入荷
純毛服地専門店
良い生地で良い仕立、そして出来るだけ安く
これが當店のモツトーです
皆様のチケツトを御利用下さい
大井洋服店
小名濱町本町通り

☆開業御知らせ☆
江名町の皆さまの足として、どなたさまにも御氣輕に御利用出来ます『輕快でスマート』な小名濱タクシーの營業所が十一月二日より江名町江ノ浦に開設いたしました
なにとぞ皆さまの格別の御引立を御願い申上げます
江名町大字江名字江ノ浦
小名浜タクシー江名營業所
電話（江名）三〇五番

せき・ぜんそくに
アスゲン錠
世に珍らしい喘息藥です
サイトウ薬局
小名浜町松の中
電六七八番

業務員若干名募集
希望者本社來談
新制高校以上、年令、不問履歴書持参
小名浜町渚廻五一
磐城日日新聞社
電話三八七番

毎度御愛用の
福助足袋大賣出し
十一月一日より新製品取揃え
福助まつり開催
特賞…テレビジョン
大当り…自轉車 腕時計 スーパーラジオ等
福助足袋専賣店
小泉屋洋品部
小名濱町本町 電話一一二番

文化の日を飾る体育祭

町長杯は第五區に

小名濱の擧町行事終る

恒例の小名浜町第五回町民体育祭は絶好の秋日和に惠まれて、菊の香薫る文化の佳節二日、三日の両日に亘り文字通り全町あげての体育祭として、町内は体育祭一色にぬりつぶされた

三日轟々と秋空高くとだまする花火を合圖に午前九時半第一小学校々庭に於て吉田公民舘主事の開會の宣言と共に体育大会の幕は切つておとされた

まず坪内レクリエーション副部長の開会の辭について、獨立の聲高らかに君が代が齊唱されるうち日の丸がヘンポンとひるがえされた、大會会長高木長年氏の挨拶、水野町長、小野縣議、馬上町議会代表、菅原教育委員長の祝辭があり、木田審判長より競技上の注意があつて後全員ラヂオ体操を皮切りに華々しく競技が開始された

トップを飾る「自轉車運乘り競走」は例年のことではあるが、その技術の向上?には舌をまくものがあり、止つたまゝ走らないと云うはなれ技を演ずる者も多数にあり審判員は嬉しい悲鳴をあげる仕末、ダンス「お花畑」「とことこ踊り」「月見草」等の可愛い良い子達の踊りは大会に花を添え一中有志のタンブリングはその見事な技術に觀衆の感歎をほしいまゝにした

消防團の「燈台下暗し」に腹をよじらせて、それがまだなおらぬうち各区対抗六百米リレーが登場し、これがまた最高潮の珍プレイとなつた

第一走者スタートよろしく砂塵をけつて飛び出した後、第二走者の顔振れ如何にと見てやれば、これは何と五區が水素の御大木村祐氏、三区が新教委の佐藤貞吾氏、四區が区長自ら出馬の石井俊太郎氏とお歴々が轡を並べての出陣、バトンがタッチされて、いや走るわ走るわ、速いの、遅いのは間題外で意氣さかんな老人の氣慨は大したものであつた、なかでも五區の木村町議は秋の陽に映えてキラキラする頭をふりたてゝ走るその姿は柳家金語樓そこのけで觀衆は抱腹絶倒、聲援はしばしなりも止まぬ盛況であつた、次いで婦人会員が手振見事に踊る「平和音頭」腰をのばして皺顔をほころばせた「敬老寶つり」など盛り澤山のプロも午後二時終了、町長杯爭奪各區對抗は第五區（高山浩　辨別）が優勝するところとなり初の榮譽に輝いた

柔道大會

柔道大會は二日午後十二時半より第一小学校講堂に於いて開催、友部智一遠藤文也、熊田正夫の三氏が審判となり、なうての猛者連によつてその覇が競われたが入賞者は次の通り

【學生、一般の部】

①佐川章嗣　學生　②高橋千代司（水素）③小山田良三（水素）④山田正（水素）⑤小野保夫（学生）⑥永井三郎（臨港）

【中學生の部】

①斎藤功（二中）②三代浩司（二中）③西槇忠文（二中）④小野英泰（二中）なお有段者の部は參加申込が少なかつた爲取止めとなつたのは返えす返えすも口惜しかつた

薫會と運輸省勝つ

町民と職場野球の決勝

また第一中學校グランドに於いて行われた町民野球大会の決勝戦は旭クラブを一蹴した薫会と港クラブ棄權のため戦わずして決勝に出場した學友との間に於いて三日午後三時より主審遊佐、一疊藤田、三島鈴木の三氏審判のもとに行われたが八A〜〇にて薫会が學友をシヤットアウトに降し優勝の榮冠を獲得した

薫〇〇〇〇〇〇〇〇—〇
学〇１３２〇〇〇５—Ａ

	打	安	三	四	失	投	捕
友学	27	3	6	5	2	渡邊 小野	管野
会薫	27	7	5	5	2	木田	石井

なお個人賞は次の通り

最高殊勲監督賞…布施惠章

最高殊勲選手賞…木田磐雄

打擊賞…柴田弘敏

美技賞…石井大藏

敢斗賞…小野英夫

仝　…管野藤藏

仝　…布施博孝

なお町民野球の前に今日午後一時より行われた小名浜町職場野球連盟主催の秋季親善野球大會決勝戦は前回の覇者丸江運送が全小名濱の赤津投手を擁する運輸省に八A〜二にて敗れ海老茶の大優勝旗は大越主將の手に燦として輝いた

丸〇〇１１〇〇〇〇２
運〇３〇１２１１〇Ａ８

	打	安	三	四	失
江	31	3	15	2	4
輸	37	12	10	7	4

赤津投小野

吉田捕小林

最高殊勲選手—赤津（運）

敢斗賞—小野（丸江）

仝　—高橋（消防）

第一回の寫生會

二百名參加で盛會

小名浜町圖畫教育研究会（曾長鈴木孝雄氏＝一中校長）では櫻えのぐ商会並に昭和堂文具店後援のもとに二日午前九時より全町古湊魚市場岩壁を中心とした第一回寫生会を行つたが、この催は畢なるコンクールの場合に多い加筆などの弊害をのぞいた自由な題材で自己の力によつて描かれるものでありその成果が期待されていたが、当日は二百名近くの參加があつて盛会を極めた

なお審査会は当日午後第一小学校に於いて鈴木孝雄一中校長を審査長に小松藤治郎三小校長、木村彰夫（二中）稻川敏行（一中）馬目一男（一小）小泉トヨ（二小）の各教官が審査を行い次のように入選を決定した

▼第一小学校（出品六五点）＝倉兼丈子、門馬弘文、佐藤征、四年＝加藤由紀子、小磯要一、柏浦妙子、五年＝遠山景武小野双葉　六年＝佐藤聖典、馬目榮子、上遠野和子

▼第二小學校（出品四八点）三年＝杉田祥治、片寄建吉、四年＝小野多惠子、一柳眞理子、五年＝川名佐位子、池田洋子六年＝遠野猛男、喜多良助

▼第三小學校（出品一三点）四年＝松田昭博、秋葉スミ子、六年＝長瀬絹子

▼第一中学校　出品三八点）一年＝奥村明之、青木久子、二年＝江尻忠久三年＝蛭田選一、鈴木百合子、鍋木カツ子、堀井修

▼第二中学校（出品一四点）一年＝志賀正文、作山友美、二年＝佐藤輝子

平間の服装發表會

小名濱公民館で開く

小名浜町平間洋裁学院では日頃の研究を發表し衣服生活の改善に資しようと九日午後一時と六時より二回に亘り公民館ホールに於てファッションショウを開くことになつた

爾来食生活の改善はつとに叫ばれ着々改善されつゝあるが衣服はややもすれば華美な流行を追う傾向にあるが平間文惠さんは公民館で毎月一日、十五日に開かれて居る婦人学級の洋裁講師などを通して本当の日本人の、小名浜地方人の生活にマッチしたところの服装をと研究して來たが、今度のファッションショウも都会のそれのように唯人々の眼を驚かせるだけのものでなく、誰でもが氣輕に樂しく着られる服装と云う同氏の夢のもられたものである

平間文惠さんはその抱負を次のように語つた

實際の生活を對象として新しい感覺をもつてアイデアト、個性を生かした服装、そう云つた私達の研究の跡、向上の跡を皆様に見て戴きたいと思います

そして和服と洋服の夫々の長所を生かし私達が實際に着て、氣輕で活動的で誰にでも出來縫直しも簡單に出來、防寒にもなるという私の夢を乘せた新しいデザインを二、三發表致しますから良く皆さまに御批判して戴きたいと思います

美顔とパーマは
本田美容室
小名濱町

泉消防團の泥擧がる

住所不定前科三犯大金光男は二十一日午後八時頃臨港鐵道泉驛ホームの清算所より千四百五十円を盗み三日小名浜地区署員に逮捕された、なお同人は二十三日夜泉村消防団第二分団より筒先及びホースカップリングを盗んだことを自供しており余罪のある見込みで目下取調べ中

終戰から引揚までの思出

日ソ開戰当時の新京

錦町　蛭田仙吉

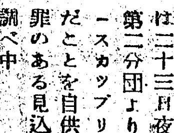
翌日は正午から最後の決別の宴が開かれた、誰も口に出して言わないがこれが最後の宴会になるものと覺悟して居たためか實に盛大で近頃になく皆んなはしやいだ、明れば十日朝六時頃からは日本人の男も女も出動して、ソ連軍の戰車を喰い止める戰車壕を街の各所に掘るために出動するやう軍の命令があつて全部出動した

午前十一時頃になると關東軍の謀大佐（特に名を秘す）が來てどうぞ皆さん軍に協力して下さい、そして最後まで新京に踏み止まり軍と共に行動して一緒に死んで呉れ、皆さんの命は國のために捧げてほしい、もし新京でソ連軍の進撃を喰い止め得なかつたなら日本は敗戰となり祖國日本はなくなつてしまう　皆さんの責任は重大だ、というやうな約二十分位にわたつて聲涙ともに下るという悲壯極まりなき話があつたが、我々始め一同は誰でも軍と共に日本國のために一命をささげる氣持になつていた

翌十一日は平常通り会社に出勤したがソ連軍の爆擊に対する色々な準備に多忙を極めて居た、午後三時頃になると日滿商事本社より電話があり至急出頭するようにとのことで早速かけつけると、ソ連の攻擊により事態は急に悪化しているので明朝早く通化方面に家族を避難させる打合せであつた早速自宅に歸り家内に相談して明朝午前九時愈々第一回の避難列車が新京駅を出發することになつたのでそれに乘車避難する準備を整えた、十二日の朝九時頃になると日滿商事会社手配のトラックが來た、全部一緒に社宅の中央に集合して乘りこみ出発した、子供達は何にがなにやら判らないのでとても喜んで元氣に出發した、出て行く者、あとに殘る者、皆の胸にはこれが夫婦親子の最後の別れになるように思われて、目頭が熱くなり人知れず涙にむせぶのであつた　とうして各所に避難が始まつたが向い側にある某会社の人達は死なば諸共にと一人も避難しなかつた、

私の所でも家内が避難をしないと言つてきかなかつたが、それでは皆な死んでしまうことになり後が困るから是非避難をしろとすすめてやつと家内だけ避難することになり寄宿している女と女中とその母親も一緒に避難するやうにすすめたが、どうせ死ぬなら新京で主人と一緒に死にたいとどうしても避難しない、やむなく家内だけ避難するととになり出發の直前私は家内を應接室に呼んで、「來る十四日の夕方若しくは十五日の午前二時までソ連兵と戰かつて祖國日本のためにいさぎよく戰死する覺悟であり、その前に大切な品物を整理して第一防空壕の中に入れて置くからあの場所をよく覺えていて戰爭の済んだ後で來て見てくれ」と申渡して出發させたがその夜は列車の都合で出發できず一時取止めになり夕方家族は引返して來た

（續く）



お知らせ

小名浜町の電話加入者がお待ちかねの電話早見表の印刷は終りました、同表には一般廣告の掲載の餘地もあり目下印刷に取りかゝつて居りますから掲載御希望の方は至急御申込下さい

御連絡あり次第社員を参上致させます

磐城日日新聞社

醫療法人　櫛田病院

院長　櫛田敏也
副院長　武川藤吉郎
醫員　幕内春義
醫員　橋本健二
◎出張醫員　原田肇
◎毎週土日　慶應義塾大学病院産婦人科教室
事務長　小山淳治
婦長　日向好止

植田町番所下六五の一
植田町公民館隣り
電（植田）三〇二番
【保險醫】
◎植田駅より徒歩にて五分

ヂーゼル機関
燒玉機関　部品
一般工具類

ヤンマーヂーゼル
三河プロペラ
熊井ピストンリング　代理店

小野商會
小名浜港（地区協組製氷工場前）
電話二六六番

御知らせ

今回自轉車界の王者宮田のギヤエム號を当地の代理店として二十日より販賣致しました御用命の際は是非御引立の程を御願い申上ます

五大メーカー宮田のギヤエム號

宮田　ノザワ　ダグラス　榮日舍　の自轉車代理店

本店　吉田屋商會　小名浜町第二小前　電話八九番
出張所　小名浜高等学校前